

平成20年度

シラバス
(第1学年)

大阪府立西浦高等学校

科名〔 国語 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
国語総合一国A(現代文)	3単位	1学年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	① 日本語の基礎となることばの正しい意味、漢字、基本的な文章表現などを修得する。 ② 日本語の文章を正しく読み取る。 ③ 評論文の学習を通して思索を深め、自己の思想・アイデンティティを形成する。 ④ 文学作品の学習を通して、人間の思想・情緒・生き方等について学び、人間・人間社会・人生について探求する。 ⑤ 自己の感性を表現することを楽しむ。
使用教科書・副教材等	三省堂『高等学校国語総合』 とうほう『標準漢字演習』 浜島書店『基礎現代文セミナー』 教科担当教諭作成のプリント

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1.学習活動の特記事項 2.副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント			
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	「祝福の言葉」(随想) 漢字・難しい語句の意味・内容読み取りプリント・漢字小テスト	4 5	近代社会の合理化、効率化の中で失われつつある「コミュニケーション」を再考、再評価する。 安楽死問題を通して、命の尊さと、生きる意味について再確認する。	随時『標準漢字演習』による小テストを実施。(以下同じ)	第 1 学 期 中 間 考 査	○	○		○
	「命は誰のものなのか」(評論) 漢字・難しい語句の意味・内容読み取りプリント・漢字小テスト 「少女」(小説) 漢字・語句の意味・内容読み取りプリント					○	○		○
第 1 学 期	「羅生門」(小説) 漢字・語句の意味・内容読み取りプリント・漢字小テスト	5 6	極限状況に追い込まれた人間が、善悪の判断を瞬時にして転換する様を読み、人間の掘って立つ理念の何であるかを考える。		第 1 学 期 期 末 考 査	○	○		○
	「水の東西」(随筆) 漢字・語句の意味・内容読み取りプリント・漢字小テスト 「レモン哀歌」「猫」(詩) 内容読み取りプリント					7 8	日本と欧米の水にまつわる美意識の違いを読み取り、自国の文化と美意識について考える。 韻文の中の情緒を味わい、表現の特徴を確認する。	○	○
第 2 学 期	「待ち伏せ」(小説) 漢字・語句の意味・内容読み取りプリント・漢字小テスト	9 10	戦争体験を通して、命の重さについて再確認する。 「個」と「全体」に関する作者の論理を読み取る。 短歌のリズムを味わい、短歌を創作する。		第 2 学 期 中 間 考 査	○	○		○
	「情報流」(評論) 漢字・語句の意味・内容読み取りプリント・漢字小テスト 「短歌」 鑑賞プリント・創作プリント					○	○		○

	「紫紺染めについて」(小説) 漢字・語句の意味・内容読み取り プリント・漢字小テスト 「地球の有限性と人間」(評論) 漢字・語句の意味・内容読み取り プリント・漢字小テスト 「俳句」 鑑賞プリント・創作プリント	1 0 ・ 1 1 ・ 1 2	宮沢賢治の独特の作風を味わう。 環境問題についてグローバルな視点で考える。 俳句のリズムを味わい、俳句を創作する。		第 2 学 期 期 末 考 査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
第 3 学 期	「富嶽百景」(小説) 漢字・語句の意味・内容読み取り プリント・漢字小テスト 「余暇について」(評論) 漢字・語句の意味・内容読み取り プリント・漢字小テスト	1 ・ 2 ・ 3	作品中に表現された心理と情景を読み取り 太宰治の作品の特長について学習する。 現代人の時間の感覚について考える。		学 年 末 考 査	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○

【1・2・3学期における課題・提出物等】

授業中にとったノート。授業で使用したプリント。漢字小テスト。長期休暇中の宿題。その他折々の課題。

【1・2・3学期における評価方法】

定期考査(約70%) 平常点(出欠・小テスト・提出物等 約30%)

教科名〔 国語 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
国語総合—国B(古典)	2単位	1学年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①歴史的仮名遣い、古語、古典文法など、古文学習の基礎を修得する。 ②日本の古典的名作を読み、固有の情緒や、描かれた文学的世界を味わう。
使用教科書・副教材等	三省堂『高等学校国語総合』 教科担当教諭作成のプリント

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	「田舎の児、桜の散るを見て泣くこと」(『宇治拾遺物語』説話)「公世の二位のせうとに」(『徒然草』随筆) 古典的仮名遣い・古語の意味・古典文法の基礎・口語訳・暗誦	4 5	①古典的仮名遣いについてしっかりと学習し、間違えずに読めるよう練習する。②特に現代語にはない古語について、その意味を確認し、覚える。③口語訳をする。④説話・随筆の面白さを味わう。⑤古文を暗誦し、古文のリズムに慣れる。		第1学期中間考査	○			○
	「後の千金のこと」(『宇治拾遺物語』説話)「大江山」(『十訓抄』説話) 読み・古語・文法・口語訳・鑑賞・暗誦	5 6 7 8	①活用語の基本形を考え、難しい古語の意味を調べる。②文中によく出てくる助動詞の意味を修得する。③口語訳する。④主題を考え鑑賞する。⑤古文を暗誦し、古文のリズムに慣れる。		第1学期期末考査	○		○	○
第2学期	「芥川」(『伊勢物語』歌物語)読み・古語・文法・口語訳・鑑賞 漢文の振り返り点	9 10	①難しい古語の意味を調べる。②口語訳をする。③伊勢の哀調を帯びた物語の世界を味わう。④技巧を多用した伊勢の歌を味わう。⑤漢文の振り返り点について学習する。		第2学期中間考査	○	○	○	○
	「借虎威」(『戦国策』)	10	①漢文の振り返り点を読めるようになる。②繰り返し音読し、漢文のリズムを味わう。③簡潔にして意味深い漢文の内容を味わう。④短歌について学習し、味わう。⑤現代にも生きている古文・漢文について学習する。		第2学期期末考査	○			
	『論語』(漢文)「短歌」(『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』)	11 12					○	○	○

第3学期	「門出」「帰京」(『土佐日記』日記)用言の活用・係り結び	1 ・ 2 ・ 3	①難しい古語の意味を調べる。②口語訳をする。③文学史における日記文学の意義について学習する。④用言の活用を系統的に学習する⑤係り結びについて学習する。		学 年 末 考 査	○			○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業中にとったノート。授業で使用したプリント。長期休暇中の宿題。その他折々の課題。									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考査(約70%) 平常点(出欠・小テスト・提出物等 約30%)									

教科名〔 地理・歴史 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
世界史 A	2単位	1学年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史に関する基礎的な知識を身につけさせる。 過去の歴史を正しく理解し、未来の選択に役立てる能力を育成する。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> 教科書…実教出版「新版 世界史A」、二宮書店「高等地図帳改訂版」

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	序章 人類の誕生と文明の発生 第1章 諸地域世界と文明 1. 東アジア世界 2. 南アジア世界 3. イスラーム世界 4. ヨーロッパ世界	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> 人類の出現、四大文明について学ぶ。 中国を中心に学ぶ。 インド、東南アジアを中心に学ぶ。 西アジア、イスラーム世界を中心に学ぶ。 古代ギリシア、ローマ帝国、中世ヨーロッパを中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料プリント 提出プリント 世界史パネル 模型教材等 	第1学期中間考查	○	○	○	○
	第2章 諸地域世界の交流 1. 海域世界の成長とユーラシア 2. 遊牧社会の膨張とユーラシア 3. 地中海海域とユーラシア 4. 東アジア海域とユーラシア	6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> インド洋、南シナ海交易を中心に学ぶ。 騎馬民族国家、モンゴル帝国を中心に学ぶ。 十字軍、イタリアの都市の発達を中心に学ぶ。 元と東アジア諸国の動きを中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 副教材 資料プリント 提出プリント 世界史パネル 模型教材等 	第1学期期末考查	○	○	○	○
第2学期	第3章 一体化に向かう世界 1. ルネサンスと宗教改革 2. 大航海時代 3. イスラーム諸王国の成熟 4. 清帝国の繁栄 5. 絶対王政の時代	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> ルネサンスと宗教改革について学ぶ。 大航海時代のヨーロッパとアメリカ、東アジアの関係について学ぶ。 イスラーム世界の繁栄について学ぶ。 イスラーム世界、ロシア、中国を中心に学ぶ。 ヨーロッパ諸国を中心に学ぶ。 文化の交流について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 副教材 資料プリント 提出プリント 世界史パネル 模型教材等 	第2学期中間考查	○	○	○	○

	<p>第4章 ヨーロッパ ・アメリカの諸革命と 世界の変動</p> <p>1. 産業革命 2. アメリカの独立と フランス革命 3. ヨーロッパ市民社 会の発展 4. 19世紀のアメリカ 5. アジア諸地域の変 動 6. 中華帝国の動揺</p>	<p>1 0 1 1 1 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命とイギリスの発展について学ぶ。 ・アメリカ独立革命、フランス革命、ナポレ オン時代について学ぶ。 ・ヨーロッパ市民社会の動きについて学ぶ。 ・イタリアとドイツの統一について学ぶ。 ・アメリカの動きについて学ぶ。 ・南北戦争と奴隷解放について学ぶ。 ・西アジア、南アジア、東南アジア、東アジ アの動きについて学ぶ。 ・帝国主義と世界の分割について学ぶ。 ・中国をめぐる動きについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材 ・資料プリント ・提出プリント ・世界史パネル ・模型教材等 	<p>第2 学 期 期 末 考 査</p>	○	○	○	○
<p>第 3 学 期</p>	<p>第5章 現代の世界 のあゆみ</p> <p>1. 急変する社会 2. 帝国主義とアフリ カ分割 3. 第一次大戦とロシ ア革命 4. 世界恐慌とニュー ディール 5. ファシズムの台頭 6. 第二次大戦</p> <p>第6章 第二次世界 大戦後の世界</p> <p>1. 冷戦と国際連合 2. アジア諸国の独立 3. 冷戦後の世界</p>	<p>1 . 2 . 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の変動について学ぶ。 ・帝国主義について学ぶ。 ・第一次大戦とロシア革命について学ぶ。 ・第一次世界大戦後の世界の動きについて学 ぶ。 ・世界恐慌とファシズムの台頭について学 ぶ。 ・第二次世界大戦について学ぶ。 ・米ソ冷戦について学ぶ。 ・第二次世界大戦後の世界の動きについて学 ぶ。 ・冷戦について学ぶ。 ・アジア、アフリカの独立について学ぶ。 ・冷戦後の国際社会の動きについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材 ・資料プリント ・提出プリント ・世界史パネル ・模型教材等 	<p>学 年 末 考 査</p>	○	○	○	○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出プリント ・その他の課題 									
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の得点 ・提出物の内容・提出状況 ・授業への参加態度、学習意欲 									

教科名〔 公民 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
現代社会	2単位	1年全クラス	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①日本、身近な地域、世界の主な国の位置など基本的な地理の知識を学ぶ。 ②自己形成の課題と青年期について学習し、自分自身の生活、生き方について考えさせる。 ③資源・エネルギー、環境、南北問題など現代の社会がかかえる様々な問題について、学習し、それに対して自分たちは、どうしていけばよいか、考えさせる。
使用教科書・副教材等	東京書籍『現代社会』 二宮書店 高等地図帳 改訂版 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						態度・関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	日本の地理 自分たちの身近な地域	4 ・ 5	日本の都道府県、県庁所在地、各府県の特徴などの項目を地図帳で確認し、基本的な地理の知識を身につける。 方位や地図記号など、地図を利用する際の基本的な知識を身につける。 自分たちの住む地域の特色を学ぶ。	地図帳の基本的な使用方法を学ぶ。 地域の特色を知る。 地図帳、プリント使用	第1学期 中間 考查	○	○	○	○
	世界の地理 現代の社会生活と青年 現代社会の特質と私達の生活	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	世界の主な国名・都市名・山地山脈・川・湖沼・気候などの基本的な項目を地図で確認し、基本的な世界の地理の知識を身につける。 世界と日本のつながりについても考えさせる。 青年をとりまく現代社会の特質について学ぶ。 情報化、国際化、少子高齢化などについて、学び、自分たちの生活への影響について、考えさせる。	地図帳を利用し、世界地理の基本事項を学ぶ。 自分たちの暮らしが世界と結びついていることを理解させる。 現代日本の特徴を理解させる。 地図帳、プリント使用	第1学期 期末 考查	○	○	○	○
第2学期	現代社会の青年の生き方 よりよく生きることを求めて	9 ・ 10	青年期の特徴を学ぶ 青年期の課題を考え、大人になることの意味を考えていく。 先人たちの思想を一部取り上げながら、よく生きることの意味を考える。 日本人のものの考え方、日本文化の特徴に触れる。		第2学期 中間 考查	○	○	○	○

	資源・エネルギー問題 環境問題 科学技術の発達と生命	10 ・ 11 ・ 12	現在の天然資源の埋蔵量や各国のエネルギー消費量の状況、原子力発電、クリーンエネルギーなどについて学習する。 地球温暖化、オゾン層破壊、砂漠化、酸性雨などの環境問題について学習する。 医療技術の発達と生命倫理、バイオテクノロジーなどについて、学習する。	新聞記事やニュースなどを積極的に利用する。 自分たちに何ができるか、考えさせる。 プリント、新聞記事など使用。	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	国際社会と人類の課題 核兵器と軍縮 民族問題と紛争 地球人として「日本の役割」	1 ・ 2 ・ 3	グローバル化についてその問題点などを学習する。 戦後の核兵器、軍縮の動きについて学習する。 人権の国際化の動きを学習する。 NGOの活動などを取り上げながら、世界の中で、日本の果たす役割を考える。	新聞記事やニュースなどを積極的に利用する。 現代の世界情勢を理解させながら、日本の役割を考えさせる。 教科書、プリント、新聞記事など使用	学年末考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 プリント、授業ノートを提出させる。各長期休暇には、課題を課す。									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考査の点数を評価の軸とする。 プリント、ノートなどの提出点、課題の提出、基礎学力テストなどを平常点として定期考査に加味して、総合的に評価する。									

教科名〔 数学 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
数学Ⅰ(Ⅰ)	4単位(Ⅰ・ロ計)	1学年 全クラス	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	① 中学数学の内容を復習し、高校数学に必要な計算力を身につけさせる。 ② 方程式と不等式では公式を理解させ確実に問題が解けるように数式への理解を深める。 ③ 2次関数では放物線のグラフの特徴をつかむ。 ④ 2次関数のグラフを描くことができるようにする。 ⑤ グラフと方程式・不等式との関係を理解する。
使用教科書・副教材等	使用教科書 : 数研出版 「改訂版 高等学の数学Ⅰ」 副教材 : 数研出版 「ポイントノート 数学Ⅰ」

2 学習計画及び評価

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
第1学期	(中学校数学の復習)		● 中学校数学までに学んだ基本的な内容を復習し、高校数学に必要な計算力を身につける。	<課題プリント>	第1学期 中間 考査	○		○	○	
	第1章 方程式と不等式 第2節 方程式と不等式 1. 方程式 2. 2次方程式(1) 3. 2次方程式(2)	4 ・ 5	● 方程式やその解の意味・性質を理解させ、基本的な方程式を解くことができるようになる。 ● 因数分解を用いた2次方程式が解けるようになる。 ● 平方根の考え方を用いた2次方程式が解けるようになる。	<課題プリント> 教科書 P29～33 副教材 P30～32			○	○	○	
	4. 2次方程式の解の公式 5. 不等式 6. 不等式の性質 7. 不等式の解	6 ・ 7	● 解の公式を用いて2次方程式が解けるようになる。 ● 2次方程式を用いた文章題を解くことができる。 ● 不等式の記号の意味を理解する。 ● 不等式の性質を具体的に示し、その性質を理解する。 ● 不等式の解の意味を理解する。	<課題プリント> 教科書 P34～46 副教材 P33～39		1学期 末 考査		○	○	○

第2学期	(関数の基本と1次関数) 第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ 1. 身近な関数 2. 関数のグラフ 3. $y = ax^2$ のグラフ 4. $y = ax^2 + q$ のグラフ 5. $y = a(x - p)^2$ のグラフ 6. $y = a(x - p)^2 + q$ のグラフ	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> ● 関数の意味を理解し、中学数学で学んだ1次関数を復習する。 ● 基本的な放物線のグラフの特徴を理解する。 ● 頂点がいろいろ動く放物線のグラフを描くことができるようになる。そのグラフが描くことができるようになる。 	<課題プリント> <課題プリント> 教科書 P50～55 副教材 P42～44 <課題プリント> 教科書 P56～61 副教材 P45～47	2 学 期 中 間 考 査	○	○			○	○
	7. $y = ax^2 + bx + c$ のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 1. 2次関数の最大値・最小値(1) 2. 2次関数の最大値・最小値(2)	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> ● 平方完成してグラフを描くことができるようになる。 ● 2次関数のグラフとその最大値・最小値を求めることができるようになる。応用として文章題も解けるようになる。 	<課題プリント> 教科書 P62～65 副教材 P48～49 <課題プリント> 教科書 P66～71 副教材 P50～53	2 学 期 末 考 査	○				○	○
第3学期	3. グラフと2次方程式(1) 4. グラフと2次不等式(1) 5. グラフと2次不等式(2)	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ● グラフと方程式の解との関係を理解する。 ● グラフを用いて2次不等式を解けるようになる。 ● 2次不等式を用いた文章題が解けるようになる。 	<課題プリント> 教科書 P72～69 副教材 P54～59	学 年 末 考 査				○	○	
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業で用いたプリントやノート、副教材の問題集、課題プリント等の提出を定期的に求める。											
【1・2・3学期における評価方法】 授業中の態度や取り組み、提出物、考査の結果などを基に、総合的に判断する。											

教科名〔 数学 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
数学Ⅰ(口)	4単位(イ・ロ計)	1学年 全クラス	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①中学数学の内容を復習し、基本的な計算力を身につけさせる。 ②方程式と不等式では公式を理解させ問題を確実に解けるように計算力を養成する。 ③三角比の基本的内容を理解する。 ④三角比を用いた図形的問題を解けるよう応用力を養成する。 ⑤図形の計量では面積と体積について具体的に理解させる。
使用教科書・副教材等	使用教科書 : 数研出版 「改訂版 高等の数学Ⅰ」 副教材 : 数研出版 「パワーポイント数学Ⅰ」 「数学Ⅰのクルーノート」

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特 記事項 2. 副教材の使用 など	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント				
						支 援	関 心 ・ 意 欲 ・ 態	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第1学期	(中学校数学までの復習)		● 中学校数学までに学んだ基本的な内容を復習し、高校数学に必要な計算力を身につける。	<課題プリント>		○				○
	第1章 方程式と不等式 第1節 数と式 1. 計算の基本 2. 文字を使った式 3. 単項式と多項式 4. 多項式の加法と減法 5. 多項式の乗法 6. 展開の公式	4 ・ 5	● 文字を使って様々なことがらを表すことができるようになる。 ● 式を整理できるようになる。 ● 指数法則を理解する。 ● 3乗の展開公式を利用できるようになる。 ● 乗法公式を利用した応用問題を解けるようになる。	<課題プリント> 教科書 P 6～17 副教材 P 1～20	1 学 期 中 間 考 査			○	○	○
第1学期	7. 因数分解 (1) 8. 因数分解 (2) 9. 根号を含む式の計算 10. 実数	6 ・ 7	● 基本的な因数分解ができるようになる。 ● たすきがけ用いた因数分解や、置き換えによる因数分解ができるようになる。 ● 根号の基本的な性質を理解し、計算や分母の有理化ができるようになる。 ● 数の拡張について理解する。	<課題プリント> 教科書 P18～28 副教材 P21～33	1 学 期 期 末 考 査	○	○	○	○	○

第2学期	第3章 図形と計量 第1節 三角比 1. 身近な三角比 2. 三角比 3. 三角比の値 4. 三角比の利用 5. 三角比の相互関係	9 ・ 1 0	<ul style="list-style-type: none"> ● 直角三角形の基本的性質を理解し、正弦・余弦・正接の定義を理解する。 ● 三角比の相互関係を理解し、利用することができる。 ● 三角比を用いた文章題を解くことができる。 	<課題プリント> 教科書 P84～96 副教材 P66～70	2 学 期 中 間 考 査	○	○	○	○
	第2節 三角形への応用 1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 三角形の面積	1 0 ・ 1 1 ・ 1 2	<ul style="list-style-type: none"> ● 正弦定理・余弦定理を理解し、利用することができる。 ● 三角形の面積の公式を理解し、問題を解くことができる。 	<課題プリント> 教科書 P97～103 副教材 P73～76	2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	○
第3学期	4. 鈍角の三角比	1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ● 鈍角三角形の基本的性質を理解し、鈍角の正弦・余弦・正接の定義を理解する。 	<課題プリント> 教科書 P104～107 副教材 P71～72	学 年 末 考 査	○	○	○	
	第3節 図形の計量 1. 相似な図形 2. 球の表面積と体積	・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ● 相似な図形について面積比・体積比について理解し、利用することができる。 ● 球の体積と表面積の公式を理解し、問題を解くことができる。 	<課題プリント> 教科書 P109～116 副教材 P77～78		○	○	○	
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業で用いたプリントやノート、副教材の問題集、課題プリント等の提出を定期的に求める。									
【1・2・3学期における評価方法】 授業中の態度や取り組み、提出物、考査の結果などを基に、総合的に判断する。									

教科名〔理科〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
理科総合A	3単位	1学年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人間と自然とのかかわりあいについて、物質の成り立ちや変化、エネルギーの利用や変換について理解し、また、自然環境の変化についても理解を深める。
使用教科書・副教材等	第一学習社出版 高等学校「理科総合A」

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	1. 物質の構成 ・物質の成分 ・物質を構成する基本粒子	4 ・ 5	身の回りに存在する物質の構成成分を考え、また、各成分の基本となる粒子とその粒子と他の粒子との結びつきについて理解する。	提出物、出欠、授業に取り組む態度等に留意する。	第1学期中間調査	○	○	○	○
	2. 物質の変化 ・化学変化の表し方 ・中和 ・酸化還元反応	6 ・ 7 ・ 8	生活に利用されている物質は天然の資源から多くの工程を経て作られている。この過程における物質の変化の規則性やエネルギーの出入りについて、また、物質の変化の種類、特徴について理解する。	提出物、出欠、授業に取り組む態度等に留意する。	第1学期期末調査	○	○	○	○
第2学期	3. 物質の利用 ・鉱物からつくられる物質 ・石油からつくられる物質 ・生物のつくる物質	9 ・ 10	人間生活の中では、種々の物質を利用している。そのため、材料物質の知識が必要となる。生活で利用されている物質の特性、性質について理解し、考察する。	提出物、出欠、授業に取り組む態度等に留意する。	第2学期中間調査	○	○	○	○

	<p>4. 仕事と力学的エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力 ・仕事と仕事率 ・力学的エネルギーの保存 	<p>10 ・ 11 ・ 12</p>	<p>理科での、重さ、力、仕事、エネルギーの用語の意味、内容について理解する。また、力や仕事とエネルギーの関係について理解する。</p>	<p>提出物、出欠、授業に取り組む態度等に留意する。</p>	<p>第2学期期末考査</p>	○	○	○	○
第3学期	<p>5. エネルギーの変換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱とエネルギー ・電気とエネルギー ・エネルギーの変換と保存 ・資源の利用と自然環境 	<p>1 ・ 2 ・ 3</p>	<p>力学的エネルギーと熱、電気との互いの変換について理解し、その中での規則性について知り、考察する。また、資源の生成、利用について理解し考察する。</p>	<p>提出物、出欠、授業に取り組む態度等に留意する。</p>	<p>学年末考査</p>	○	○	○	○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <p>授業中に配布するプリント 実験のレポート 長期休業中の課題 など</p>									
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <p>考査評価 宿題 配布プリント等の提出物評価</p> <p>出欠、授業に取り組む態度の評価</p>									

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
男子 体育	3単位	1学年 1～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①本校の体育授業のシステムを理解し、行動できるようにする。 ②自ら考え、運動する意欲を培い、基礎体力の向上をはかる。 ③運動を通して、仲間づくりや他人と協調し、思いやる心をはぐくむ。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント					
						支	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
第1学期	◎オリエンテーション ◎集団行動 ◎ラジオ体操第一 ・テストあり ◎陸上（リレー）	4 ・ 5	◎オリエンテーション ・本校の体育授業について、全体とクラス別にオリエンテーションを開き、システムを理解する。 ◎基本的な動作ができるようになる。 ◎正確な動作と順序でできるようになる。 ◎50m走の記録を利用してチーム編成し、リレーをおこなわせる。リレーを通して、チームで協力する態度を養う。		第1学期中間調査	○	○		○		
	◎トレーニング ◎水泳 （シラバス水泳を参照）3回中、2回の授業が水泳となる	6 ・ 7 ・ 8	◎中距離走にトライする ・大きくリラックスしたランニングフォームで走りきることを目標とする。 ◎クロールと平泳ぎでそれぞれ25mを完泳できるようにする。			第1学期期末調査	○	○	○	○	
	◎水泳 ◎陸上（ハードル） ◎球技（サッカー）	9 ・ 10	◎クロールと平泳ぎで50mを完泳できることを目標とする。 ◎ハードリングの技能を身につけ、走りきれようになる。 ◎自己の能力に応じて技能を高め、作戦をたてゲームが出来るようになる。				第2学期中間調査	○	○	○	○

	◎柔道(シラバス1年柔道を参照)	10 ・ 11 ・ 12			第2学期期末考査				
第3学期	◎持久走(シラバス持久走を参照) ◎球技(バスケットボール)	1 ・ 2 ・ 3	◎週2回の授業を通して、自己の体力の向上と記録向上を目標とする。 ◎自己の能力に応じて技能を高め、作戦をたてゲームが出来るようになる。		学年末考査	○	○	○	○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の能力に応じた運動の課題を見つけ、その克服を目指す。 ・ みんなと協力して授業を創る習慣を身につけさせる。 									
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記録会や発表会などの場面において、自己の能力を最大限に活かし、授業に取り組めたかどうか、みんなと協力して授業に取り組めたかどうか、などを重点に出席点と実技点の合計で評価する。 ・ 水泳・持久走については、欠席や見学の場合、補習がある。授業回数分は必ず補習に参加するものとする。 									

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
女子 体育	3単位	1学年 1～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①本校の体育授業のシステムを理解し、行動できるようにする。 ②自ら考え、運動する意欲を培い、基礎体力の向上をはかる。 ③運動を通して、仲間づくりや他人と協調し、思いやる心をはぐくむ。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						支	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	◎オリエンテーション ◎集団行動 ◎ラジオ体操第一・テストあり ◎陸上（リレー）	4 ・ 5	◎オリエンテーション ・本校の体育授業について、全体とクラス別にオリエンテーションを開き、システムを理解する。 ◎基本的な動作ができるようになる。 ◎正確な動作と順序でできるようになる。 ◎50m走の記録を利用してチーム編成し、リレーをおこなわせる。リレーを通して、チームで協力する態度を養う。		第1学期中間調査	○	○		○	
	◎トレーニング ◎水泳（シラバス水泳を参照）3回中、2回の授業が水泳となる	6 ・ 7 ・ 8	◎中距離走にトライする。 ・大きくリラックスしたランニングフォームで走りきることを目標とする。 ◎クロールと平泳ぎでそれぞれ25mを完泳できるようにする。			第1学期期末調査	○	○	○	○
第2学期	◎水泳 ◎陸上（ハードル） ◎球技（バスケットボール）	9 ・ 10	◎クロールと平泳ぎで50mを完泳できることを目標とする。 ◎ハードリングの技能を身につけ、走りきれようになる。 ◎自己の能力に応じて技能を高め、作戦をたてゲームが出来るようになる。		第2学期中間調査	○	○	○	○	

	◎ダンス(シラバス1年ダンスを参照)	10 ・ 11 ・ 12	◎基本のステップを覚え、グループで1曲、課題のダンスを踊れるようになる。		第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	◎持久走(シラバス持久走を参照) ◎ダンス(シラバス1年ダンスを参照)	1 ・ 2 ・ 3	◎週2回の授業を通して、自己の体力の向上と記録向上を目標とする。 ◎作品作りを仲間と協力しておこない、発表できるようになる。		学年末考査	○	○	○	○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の能力に応じた運動の課題を見つけ、その克服を目指す。 ・ みんなと協力して授業を創る習慣を身につけさせる。 									
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記録会や発表会などの場面において、自己の能力を最大限に活かし、授業に取り組めたかどうか、みんなと協力して授業に取り組めたかどうか、などを重点に出席点と実技点の合計で評価する ・ 水泳・持久走については、欠席や見学の場合、補習がある。授業回数分は必ず補習に参加するものとする。 									

教科名〔保健体育〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
保健	1単位	1学年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①生涯を通じた健康づくりの知識を身につける。 ②自己の「健康」についての理解を深める。
使用教科書・副教材等	・ 現代保健体育 大修館書店 保対001 ・ 現代保健ノート 大修館書店

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	◎オリエンテーション ◎私たちの健康のすがた ◎健康のとらえ方 ◎さまざまな保健活動や対策 ◎生活習慣病と日常生活行動	4 ・ 5	◎ オリエンテーションを通して、保健の授業の受け方や出席・成績について理解する。 ◎ わが国の健康水準を理解する。 ◎ 健康とは何かを理解する。 ◎ ヘルスプロモーションという考え方と活動について理解する。 ◎ さまざまな生活習慣病について理解する。 ◎ 自己の生活を振りかえらせ、将来の予防とする。	教科書P, 8～15 教科書P, 16・17	第1学期中間考查	○	○		○ ○ ○
	◎喫煙と健康 ◎飲酒と健康 ◎薬物乱用と健康 ◎医薬品と健康	6 ・ 7 ・ 8	◎ タバコの害について理解し、将来の健康維持につながることを自覚する。 ◎ 酒の害について理解し、将来の健康維持につながることを知る。 ◎ 薬物乱用について理解し、その防止につなげる。 ◎ 医薬品のいろんな作用について理解する。 ◎ 自分の家庭にある医薬品にも注意が払えるようになる。	教科書P, 18・19 教科書P, 20・21 教科書P, 22・23 教科書P, 24・25	第1学期期末考查	○	○		○ ○ ○ ○

第2学期	◎感染症とその予防 ◎エイズとその予防 ◎健康にかかわる意志決定・行動選択	9 ・ 10	◎ 今日注意すべき感染症について理解する。 ◎ エイズに対する正しい知識を身につけ、差別や偏見をなくす。 ◎ 心の健康について理解する。	教科書P、26・27 教科書P、28・29 教科書P30～35	第2学期中間考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	◎欲求と適応機制 ◎心身相関とストレス ◎ストレスへの対処 ◎自己実現	10 ・ 11 ・ 12	◎ 欲求不満と適応機制について理解し、日常生活の中でしている自分達の心の働きについて考える。 ◎ 心と身体のかかわりについて理解する。 ◎ ストレスへの対処のしかたを理解する。 ◎ 自分にとっての自己実現を考える。	教科書P、36・37 教科書P、38・39 教科書P、40・41 教科書P、44・45	第2学期期末考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
第3学期	◎交通事故の現状と要因 ◎応急手当の意義とその基本 ◎心肺蘇生法	1 ・ 2 ・ 3	◎ 交通事故における現状について理解を深め、事故を起こしたときの責任と補償についても学ぶ。 ◎ 日常的な応急手当について知識を身につける。 ◎ 心臓マッサージと人工呼吸のやり方を身につける。	教科書P、46～53 教科書P、54・55 P58・59 教科書P、56・57	学年末考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
【1・2・3学期における課題・提出物等】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健ノートを各学期2回は提出させる ・ テーマに応じた課題を与え、レポートさせる。 ・ 長期休業中に宿題を課し、評価に加える。 									
【1・2・3学期における評価方法】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査は期末考査のみで年3回とする。 ・ 各学期の評価は、考査と平常点（授業態度・ノート・課題・出席状況など）でつける。 									

教科名〔 芸術 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
音楽Ⅰ	2単位	1年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①歌唱・器楽・鑑賞などを通して、音楽活動の楽しさを体験する。 ②音や音楽への興味・関心を養い、聴くことへの集中力を高める。 ③音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 ④音楽の歴史をたどり、西洋音楽史についての理解を深める。
使用教科書・副教材等	音楽の友社『高校生の音楽Ⅰ』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の上	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第1学期	校歌 青春の歌 器楽（ソプラノリコーダー）	4・5	☆ 西浦校生としての自覚をもつとともに、自校を愛する心を養う。 ☆ これまでに慣れ親しんだ曲を用いて、歌うことの楽しさを感じるとともに、新しい仲間と音楽で輪をつくる。 ☆ 基本的な運指を習得し、リコーダーで曲を演奏する楽しさを味わう。		第1学期中間考查	○			
	季節の歌 言葉と音楽 器楽（ソプラノリコーダー）	5・6・7	☆ 肌で感じる季節と歌曲との結びつきに目を向け、四季折々の自然を伸び伸びと歌う。 ☆ 日本語以外の歌唱曲を通じて、言葉とメロディの結びつきを感じ取る。 ☆ 息の使い方、姿勢など、様々な要素で音色が変わることを自覚し、美しい音色で演奏できる技術を身につける。		第1学期期末考查	○	○	○	
	鑑賞	8	☆ バロックの音楽に親しむ。			○			○
第2学期	歌声をつくろう 器楽（ギター）	9・10	☆ 声を出すことに慣れるとともに、発声の基本的な奏法を身につけ、曲種によつての表現方法を工夫する。 ☆ 各部の名称、ギターの構造などを理解し、基本的な奏法を学ぶ。		第2学期中間考查	○		○	

	器楽（ギター） 言葉と音楽2 鑑賞	10 ・ 11 ・ 12	☆ タブ譜の読み方を学ぶ。 ☆ 旋律の演奏を通して、ギターを演奏する楽しさを味わう。 ☆ 日本語の歌詞による歌唱曲を通じて、言葉とメロディの結びつきを感じ取り、表現を工夫できる力を養う。 ☆ 古典派の音楽に親しむ。		第2学期 期末 考査	○	○	○	○
第3学期	リコーダーアンサンブル 鑑賞	1 ・ 2 ・ 3	☆ ソプラノリコーダーにおけるアンサンブルを通じて、自分の役割をしっかりと認識して果たし、みんなでひとつのものを創り上げる喜びを味わう。 ☆ 日本の音楽に親しむ。		学年 末 考査	○		○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 毎時間の演習プリント・その他プリント課題等 学期ごとにファイル提出									
【1・2・3学期における評価方法】 実技試験（授業で取り扱った曲より抜粋）、提出課題、毎時間の授業に取り組む姿勢、出席状況などを総合的に評価する。									

教科名〔 芸術 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
美術 I	2単位	1年 1～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①美術の幅広い創造活動を体験する。 ②美的体験を豊かにする。 ③美術を愛好する心情を育てる。 ④感性を高める。 ⑤講義実習を通して創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	光村図書『美術 1』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	大 芸術的な感受や表現の上	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第1学期	オリエンテーション	4 ・ 5	○ 表現することの意味 ○ 実技・実習での取り組み態度		第1学期中間考查	○		○	○
	レタリング 書体研究 文字の変形		○ 日常生活の中で、文字が果たす役割を考える。 ○ 文字デザインの基礎として、レタリングについて学習する。			○		○	○
	色について 色の三属性と色立体 混色・トーン	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	○ 色を日常生活の中で効果的に活用するために、色の性質をよく理解して正しい使い方を身につける。		第1学期期末考查	○		○	○
	形の構成について 調和・バランス・リズム		○ デザインの基礎的な造形力を養う。 ○ 効果的な構成を行うために、形体構成の基本原則を学ぶ。			○	○	○	○

第2学期	自画像のスケッチ 手のデッサン 鉛筆デッサン 鏡を見ての 観察スケッチ 自分の顔の イラストレーション ダンボールを使用 B4 ボード	9 ・ 10	<input type="checkbox"/> 手のデッサン、顔のデッサンなどを通して、人物表現の楽しさを感じ取る。 <input type="checkbox"/> 立体的なイラストレーションの楽しさを知る。		第2学期 中間考査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	グリーティング カード制作 ペーパークラフト演習	10 ・ 11 ・ 12	<input type="checkbox"/> マーブルリング、スパッタリングなどの表現技法を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 偶然できた形の中にも、美しさがあることを理解する。 <input type="checkbox"/> 紙の性質を理解し、立体的な表現の面白さを知る。		第2学期 期末考査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
第3学期	動植物のスケッチ 鉛筆デッサン	1 ・ 2	<input type="checkbox"/> 特別な物でなくとも絵のモチーフになる事を理解する。 <input type="checkbox"/> 生き生きとした表現ができるように指導する。		学年 末考査	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	銅版薄板による レリーフ制作	3	<input type="checkbox"/> 金属（銅）の性質を理解し、平面的なものが立体的に見えるレリーフ表現を試してみる。			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
【1・2・3学期における課題・提出物等】 各作品、演習プリント等									
【1・2・3学期における評価方法】 各作品、演習プリント、平常点等を総合的に判断する。									

教科名 [芸術]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
書道 I	2単位	1年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①書写能力を高め、用具用材を生かした表現の基礎的な能力を伸ばす。 ②文字を素材とした芸術としての書道を学び、古典に基づく表現力・鑑賞力を身につける。 ③日常生活における書の効用や日本・中国の書の文化を理解する。 ④書道の幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てる。 ⑤感性を豊かにし、創造的な表現力を身につける。
使用教科書・副教材等	東京書籍『書道 I』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の上	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第1学期	○ オリエンテーション ○ 用具用材 ○ 筆の性能を知ろう 書写から書道へ いろいろな線による表現の広がり ○ 起筆の角度と線質 ○ 楷書の基本用筆 ○ 楷書の特徴	4 ・ 5	・年間計画と授業の進め方を理解し、書道に取り組む意欲を喚起する。 ・用具用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。 ・筆の機能を理解しながら、さまざまな線質表現を学ぶ。 ・執筆法、用筆法を理解し確実に身に付ける。 ・楷書の基本用筆や、特徴を理解し、工夫し考えながら表現する力を身につける。	アンケートによる実態把握 自作プリント	第1学期中間調査	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	○ 背勢と向勢 ○ 姓名を書く ○ 楷書の名品を書こう～臨書～ 欧陽詢 九成宮醜泉銘 ・半紙二字作品 5種 ・半紙四字作品 3種 ・半切(135×35)二行書 12字作品 ○楷書ペン字プリント (硬筆検定対応) ○夏休みの課題 鑑賞レポート	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・背勢と向勢の結構の違いによる表現効果を理解し表現する。 ・姓名作品で応用する技量を身につける。 ・古典の特徴を発見し、表現する。 ・古典の魅力に関心を持ち、鑑賞し、その良さを味わう。 ・多字数を書き通す技量と集中力を養うとともに、作品完成の達成感を味わう。 ・硬筆での筆記能力を高める。 ・校外での展覧会にでかけ鑑賞の幅を広げ、書を愛好する心情を培う。	鑑賞レポート	第1学期期末調査	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○

第2学期	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 行書の基本用筆と特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・姓名を行書で書く ◎ 行書の名品を臨書する『王羲之 蘭亭序』 <ul style="list-style-type: none"> ・半紙四字作品 6種 ・聯 (135×35) 1行書 ◎ 第33回全大阪高等学校書道コンクール全員出品 ◎ 行書ペン字プリント 	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の基本用筆、筆脈を理解し、表現する力を身につける。 ・行書の特徴を理解し、姓名に応用して書く。 ・蘭亭序の臨書表現力を高める。 ・行書の基本学習を生かしながら、墨色、墨量、文字構成を、工夫し作品を書く。 ・意欲的にコンクール出品作に取り組む。 ・硬筆での行書表現に慣れ生活にも生かす。 	佳作壁面展示 コンクール出品	第2学期中間考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 蘭亭序条幅作品 <ul style="list-style-type: none"> ・蘭亭序を原寸大に鉛筆で書く ・半切縦(135×35) 2行書23字 ・半切横(35×135) 自由作品 ◎ 仮名の基本 ひらがな単体 連綿、変体仮名 ◎ 和紙20枚を染める (紙染め技法4種を自由に生かして) ◎ 創作カレンダー 	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆で書くことで全体の構成イメージと筆脈を確認する。 ・多字数の特徴をつかみながら縦作品・横作品としてまとめる力を身につけ書作の達成感を味わう。 ・仮名の基本用筆を身につけ、連綿と変体仮名を理解する。 ・楽しく取り組み新しい工夫をこころみる。 ・これまで身につけた楷書・行書・仮名の基本の表現力にもとづき創作に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員作品展示 ・鑑賞会 ・染紙提出20枚 (1月まで乾燥あずかり) 	第2学期期末考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
第3学期	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 第59回大阪府高等学校書道展鑑賞レポート(大阪市立美術館) ◎ 漢字仮名混じり文創作『現代詩を書こう』 ～今を生きる自分自身の表現～ <ul style="list-style-type: none"> ・書美の要素を再認識するための研究 ◎ 染め紙20枚に作品完成 ◎ 1年まとめプリント 	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持って鑑賞し視野を広げる。今後の作品制作への意欲を喚起する。 ・積極的に自分のことばをつくったり探したりし、創作意欲を高める。 ・テーマごとに試行錯誤を大胆におこない自分の表現力の幅を広げることをめざす。 ・自己の、表現意図にもとづき表現する。 ・自分なりの個性を打ち出すことができるように工夫し取り組む。 ・1年間の学習を振り返り書道Ⅱの学習に関心を向ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート提出 ・詩文提出 ・作品提出 ・製作メモ提出 ・作品展示 ・鑑賞会 	学年末考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <p>作品は基本的に毎時提出。合格制。 練習作品とプリントもすべてファイルにとじ、各考査前に提出。 2学期に書道コンクール出品。鑑賞レポート。</p>									

教科名〔 英語 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
オーラルコミュニケーション I	2単位	第1学年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	外国人講師との授業を通じて、異なる文化を持った他国の人々とコミュニケーションを楽しめるようになる。身近な話題について、英語を聞いたり、話したりして、積極的にコミュニケーションを図る。
使用教科書・副教材等	教科書・・・「Sailing Oral Communication I」(啓林館) 副教材・・・「Sailing Oral Communication I workbook」 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
第1学期	Unit 1 Warm-up 1 “English Around the World” Warm-up 2 “People Around Us” Unit 2 Lesson 1 “What Day Is Convenient for You?” Lesson 2 “How Was Last Sunday?”	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ができるようにする。 他人を紹介する。 感情の表現ができるようにする。 会話の応答の練習をする。 学校生活について伝えられるようにする。 週末の出来事を伝えられるようにする。 	Sailing Oral Communication I Workbook Warm-up 1, 2, Lesson 1, 2	第1学期中間考査	○		○		
	Lesson 3 “Could I have an extra blanket?” Lesson 4 “Who’s Calling, Please?” Lesson 5 “How Can I Get There?”	6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> 機内での会話に慣れる。 簡単な電話の応答ができるようにする。 簡単な道案内ができるようにする。 	Sailing Oral Communication I Workbook Lesson 3, 4, 5	第1学期期末考査	○		○	○	○

第2学期	Lesson 6 “May I Help You?”	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物やレストランでの注文ができるようにする。 ・パーティーで簡単な会話ができるようにする。 服装等の描写ができるようにする。 	Sailing Oral Communication I Workbook Lesson 6, 7,	第2学期 中間 考査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
	Lesson 7 “You Look Nice in That Dress!”									Lesson 8 “I’m Not Feeling Well”	Lesson 9 “I Want to Be a Diplomat”	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・体の具合を表現できるようにする。 ・自分の将来の夢ややりたい職業について言えるようにする。 	Sailing Oral Communication I Workbook Lesson 8, 9
第3学期	Lesson 10 “Do You Share the Housework?”	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・家事の表現を学ぶ。 ・賛成、反対の理由を言えるようにする。 ・自分の意見をスピーチできるようにする。 ・英語で自由に簡単な会話ができるようにする。 	Sailing Oral Communication I Workbook lesson 10	学 年 末 考 査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
	Unit 3 “Expressing Opinions”									<ul style="list-style-type: none"> ・賛成、反対の理由を言えるようにする。 ・自分の意見をスピーチできるようにする。 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	“Presenting Opinions”										<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
【1・2・3学期における課題・提出物等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションなどの実技課題を毎時間課す。 ・プリントを適宜提出させる。 ・3学期にはNETとのインタビューテストを実施する。 														
【1・2・3学期における評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・実技教科と見なし、技能テストの機会を多く設け、日常の学習活動を重んじる。 														

教科名 [英語]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
英語 I	3単位	第1学年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	「ことばの教育」「国際理解教育」「人間教育」という観点を持ち、中学校での学習事項の復習、および基礎・基本の定着をはかる。また、一人でも多くの生徒が英語を学ぶ楽しさを見つけ、興味関心が高まることを目標とする。特に音読と語彙力の指導に力点を置く。
使用教科書・副教材等	教科書：「VISTA English series I」（三省堂） 副教材：「ウィリングNEW基本の英語」（啓林館）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント				
						支	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	授業のガイダンス(1)		ノートのとりかた、予習について。	(年間を通じて)	第1学期中間考查					○
	Lesson 1 Our Earth (3)	4	「地球のために何ができるか」を主題とする。言語材料：be 動詞の用法とその否定文 一般動詞の用法とその否定文	1. 予習をして、授業に臨む。 2. 新出単語・熟語の確認。 3. 本文の音読 4. ノートを整理する。		○		○	○	
	Lesson 2 Wetland (4)		5	「鶴の生態湿原の大切さを知り、環境破壊に対してできること」を主題とする。 言語材料：疑問文の用法、現在進行形の用法		5. 文法事項の整理 をプリントなどで行う。	○		○	
	Lesson 3 Languages in Malaysia (4)		「マレーシアの言葉や話題を元に多民族・多言語について、また日本について」考える。 言語材料:助動詞の用法とその否定文・疑問文			○	○		○	
	Lesson 4 Wind--- a 'New' Power (3)	6	「風車の役割の変遷を知る。自然エネルギーの有用性」を考える。 スピーチの形式を知る。 言語材料：過去形の用法とその否定文、疑問文	1. 予習をして、授業に臨む。 2. 新出単語・熟語の確認。 3. 本文の音読 4. ノートを整理する。		○	○		○	
	Lesson 5 Women's Day and Teacher's Day (3)		7	SVO 型の文で O が that 節の用法 ベトナムの学校行事を知る。 eメールの形式を知る。 言語材料：SVOOとSVOCの文型		5. 文法事項の整理 をプリントなどで行う。	○		○	○
Lesson 6 Trees, Rivers, and the Sea (4)	8		「樹木、川、海との関係、生態系について」考える。 テレビ番組の表現を知る。 言語材料：不定詞の用法（名詞用法、副詞用法、形容詞用法） 形式主語(It ～ to ～)		○	○		○		

第2学期	Lesson 7 Happy Birthday to You! (8)	9 ・ 10	「各国の誕生日の慣習」を知る。その上で日本の慣習と比べてみる。 言語材料：動名詞の用法	1. 予習をして、授業に臨む。 2. 新出単語・熟語の確認。 3. 本文の音読 4. ノートを整理する。 5. 文法事項の整理をプリントなどで行う。	第2学期 中間 考査	○	○	○
	Lesson 8 Oki, an Ainu Musician (8)		「アイヌ民族や伝統文化」について知る。 言語材料：現在完了の用法（継続、完了、経験） SVO の文型で O が how to~の用法	○		○	○	
第2学期	Lesson 9 Footpaths (8)	10 ・ 11 ・ 12	英国の美しい田園風景を守ってきた「フットパス文化」を知り、景観保全について考える。 言語材料：受け身の用法と否定文、疑問文の作り方	1. 予習をして、授業に臨む。 2. 新出単語・熟語の確認。 3. 本文の音読 4. ノートを整理する。 5. 文法事項の整理をプリントなどで行う。	第2学期 期末 考査	○	○	○
	Lesson 10 Finding My Way (8)		「女優・忍足亜希子さんの苦闘や生き方」を通して、挑戦する事の大切さを学ぶ。 言語材料：関係代名詞の用法（主格、目的格） 形式主語の用法(It ~ to ~)	○		○	○	
第3学期	Lesson 11 Land mines (9)	1 ・ 2 ・ 3	「地雷に関する実態」を知り、「戦争」「平和」について考える。 インタビューの形式を知る。 言語材料：現在分詞の形容詞用法 過去分詞の形容詞用法	1. 予習をして、授業に臨む。 2. 新出単語・熟語の確認。 3. 本文の音読 4. ノートを整理する。 5. 文法事項の整理をプリントなどで行う。	学 年 末 考 査	○	○	○
	Lesson 12 The bus boycott (9)		「ローザ・パークスさんの勇気ある行動」を知る。 「人種差別」について考える。 言語材料：使役動詞の用法 知覚動詞の用法	○		○	○	
【1・2・3学期における課題・提出物等】								
1. ノート、プリント等の提出は随時おこなう。 2. 新出単語と音読の小テストを行う。 3. 『予習』を励行する。								
【1・2・3学期における評価方法】								
1. 年5回実施する定期考査の点数。 2. 小テストの点数、提出物の提出状態。 3. 授業への参加態度等 以上1を基本に2, 3を考慮して評価をする。								

教科名〔 家庭 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
家庭総合	2単位	1年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>①社会との関連を考慮しながら時代の進展に対応し、男女が協力して家庭生活を築くことのできる実践的な態度と能力を育てる。</p> <p>②消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>
使用教科書・副教材等	<p>実教出版株式会社『新家庭総合』</p> <p>プリント教材</p>

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						態度・関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	家庭科を学ぶにあたって	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、プリントの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。		第1学期期末考查	○	○		
	経済のしくみを知る		・高校入学にどのくらい費用がかかるかを考えることによって、家計の重要性を理解する ・家計収支の構成や家計の把握の重要性について考えることができる。	プリント記入 プリント記入			○	○	
	計画的にお金を使う		・生活設計にかかわらせて、長期の経済計画の必要性について理解する。	経済計画のシュミレーション		○	○	○	○
	主体的な消費行動		・契約、多様な販売方法や支払方法、問題商法について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する。	問題商法のビデオ視聴		○	○		○
	消費者の権利と責任		・消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。	プリント記入		○	○	○	○
	資源と環境を考える		・身近な生活と環境問題が密接に関係していることを理解している。	プリント記入		○		○	○
生命の誕生 心身の豊かな発達を 子どもの生活を知る		・青年期の健康管理の重要性を理解する。また、子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴を理解する。	プリント記入 ビデオ視聴	○	○		○		

第2学期	こどもの生活を知る	9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	・子どもの生活や遊びについて理解する。	プリント記入 伝承遊び実習	第2学期 期末 考査		○	○	○
	すべての子どもがすこやかに		・現在の子どもをとりまく環境を知り、子どもの発達と環境とのかかわりについて学習する。家庭保育と集団保育、子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。	プリント記入 保育人形観察		○	○	○	○
	人と住まいのかかわり		・住まいの機能や歴史について知り、住まいが気候風土や生活と密接にかかわっていることを理解する。	プリント記入			○		○
	快適な住まいづくり		・生活の機能に応じた住空間の構成を理解し、ライフステージやライフスタイルに応じた住生活の計画ができるようにする。また、平面図の読みとりができるようにする。	プリント記入 平面図のシュレ ーション		○		○	○
第3学期	健康的で安全な住まい環境	1 ・ 2 ・ 3	・快適な室内環境について理解する。家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。	プリント記入	学 年 末 考 査	○	○	○	○
	よりよい住生活を創造するために		・住生活の現状や住宅政策を理解する。	プリント記入 住生活のビデオ 視聴			○		
【1・2・3学期における課題・提出物等】									
1学期ープリント提出、ビデオ視聴プリントの提出、経済計画表の提出									
2学期ープリントの提出、ビデオ視聴プリントの提出、保育人形の感想文提出、平面図の提出									
3学期ープリントの提出、ビデオ視聴プリントの提出、紡糸実習の作品提出									
【1・2・3学期における評価方法】									
プリントや実習課題の提出状況、考査成績、学習への取り組み状況を総合して評価を行う。									